

## 2018 年度 F D 実施報告書

研究科	流通科学研究科
<p><b>F D 取り組みへの理念・目標</b></p> <p>流通科学研究科で修士号を取得した者についての「質の保証」という点で「修士（流通科学）」にふさわしい人材を育成することを理念として、それを達成するための教員の教育研究および研究科としての教育内容の充実が目標である。ただし、両方とも学部との連関があるため、学部との連携でFDを実施することが流通科学研究科のFDの基本と考える。</p>	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
<p>第 1 回 (2018. 5. 9)</p>	<p>「大学院の将来構想について」</p> <p>① 修士論文の質の向上（指導教員の所属学会等での研究発表を行わせる、中間報告前の指導の強化）</p> <p>② 大学院生の確保（日本語学校・高校の先生・企業や福岡商工会議所への PR 強化、入試課との大学院対策の検討）</p> <p>を中心に大学院の現状と課題および今後の対策の方向性に対する意見交換を行った。</p>
<p>第 2 回 (2018. 7. 4)</p>	<p>「大学院のカリキュラムの充実について」</p> <p>次世代の地域ニーズ（社会人を対象とした“学び直し”希望）に応じた修士課程教育プログラムの確立に向けての意見交換を行った。社会人として大学院で学んだ経験のある先生方より活発かつ貴重な意見・情報が出され、実現への展望と課題についての認識を深めることができた。</p>
<p>第 3 回 (2018. 11. 7)</p>	<p>「大学院の学生確保について」</p> <p>過去 9 年間の大学院入学者の人数と属性（留学生、社会人等）について確認した後に、今後社会人の“学び直し”ニーズに応えるカリキュラム構成、募集方法、指導方法等についての議論を行ったが、実現には様々な課題もあり、他大学の例を調べたり、関心のありそうな社会人へのヒアリングを行いながら、引き続き前向きに検討を行うこととなった。</p>
<p>第 4 回 (2019. 2. 27)</p>	<p>「総括と次年度へ向けて」</p> <p>本年度の 2 つの目標のうち、「修士論文の質の向上」については大学院生全員が 1 回以上の研究発表を行い、中間報告前に指導教員だけでなく 2 名の副査からも指導を受ける体制ができたことで、スムーズで質の高い論文指導ができたと評価された。</p> <p>「大学院生の確保」については、社会人に向けたカリキュラムの充実や PR の重要性は共通認識となったが、その実現に向けては課題も多く、引き続き調査・検討が必要であると判断された。</p> <p>次年度以降も、地域の社会人のニーズや他大学の例について調査を行い、社会人大学院生の入学者数増加に向けて前向きに取り組んでいきたい。</p>

**「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況**

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
授業科目の組織的な管理	ループリックの導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	基本的に大学院運営委員にて検討していく。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	<input type="checkbox"/> 未着手 <input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	基本的に大学院運営委員にて検討していく。
教育方法の改善	アクティブラーニング (特に PBL) の推進 PBL : 課題解決型授業	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済	特別実習にて指導教員の指導により実施し、流通科学特別実習報告書を作成。
グローバル教育の推進	グローバル教育の導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済	国際コミュニケーション特論の科目内容の充実および英語版シラバスの作成を実施。